

第4章 採用実績企業による 能開大卒業生の評価に関する調査結果

第4章 採用実績企業による能開大卒業生の評価に関する調査結果

過去3年の間に、能開大の卒業生を採用したことがある企業に対し、能開大卒業生の職場における能力や資質の評価について質問した。

第1節 採用時に期待した能力や資質

Q6. 貴社では、どのような能力を期待して能開大卒業生を採用しましたか。（専門課程、応用課程それぞれについて、いくつでも○）

能開大卒業生のどのような点に期待して採用したかについて、専門課程では、「ものづくりの基本となる技能や技術」が最も高く、57.5%であった。次に「ものづくりの基本となる理論や知識」が50.3%、三番目として「身に付けた技能や技術を実践に適用する力」の49.5%であった。一方、最も低かったのは「現場でのリーダーシップの発揮」であり17.0%、続いて「現場の人間関係を円滑に保つ努力」18.8%、「仕事の幅広さや変化に対する適応力、柔軟性」21.0%であった。

応用課程では、「ものづくりの基本となる技能や技術」が最も高く、63.5%であった。続いて、「ものづくりの基本となる理論や知識」が58.5%、三番目として「身に付けた技能や技術を実践に適用する力」の55.2%であった。一方、最も低かったのは「現場の人間関係を円滑に保つ努力」であり24.0%、続いて「業務上必要なその他の重要知識の習得」27.0%、「現場でのリーダーシップの発揮」30.0%であった。

企業が採用時期待した項目は専門・応用課程による差はなく、能開大から採用するにあたって、業務に対する基本的なスキルと知識を有し、現場では即戦力として、先述の能開大生に対する採用意向とその理由（第3章、第1節）に呼応した結果が示された（図4-1）。

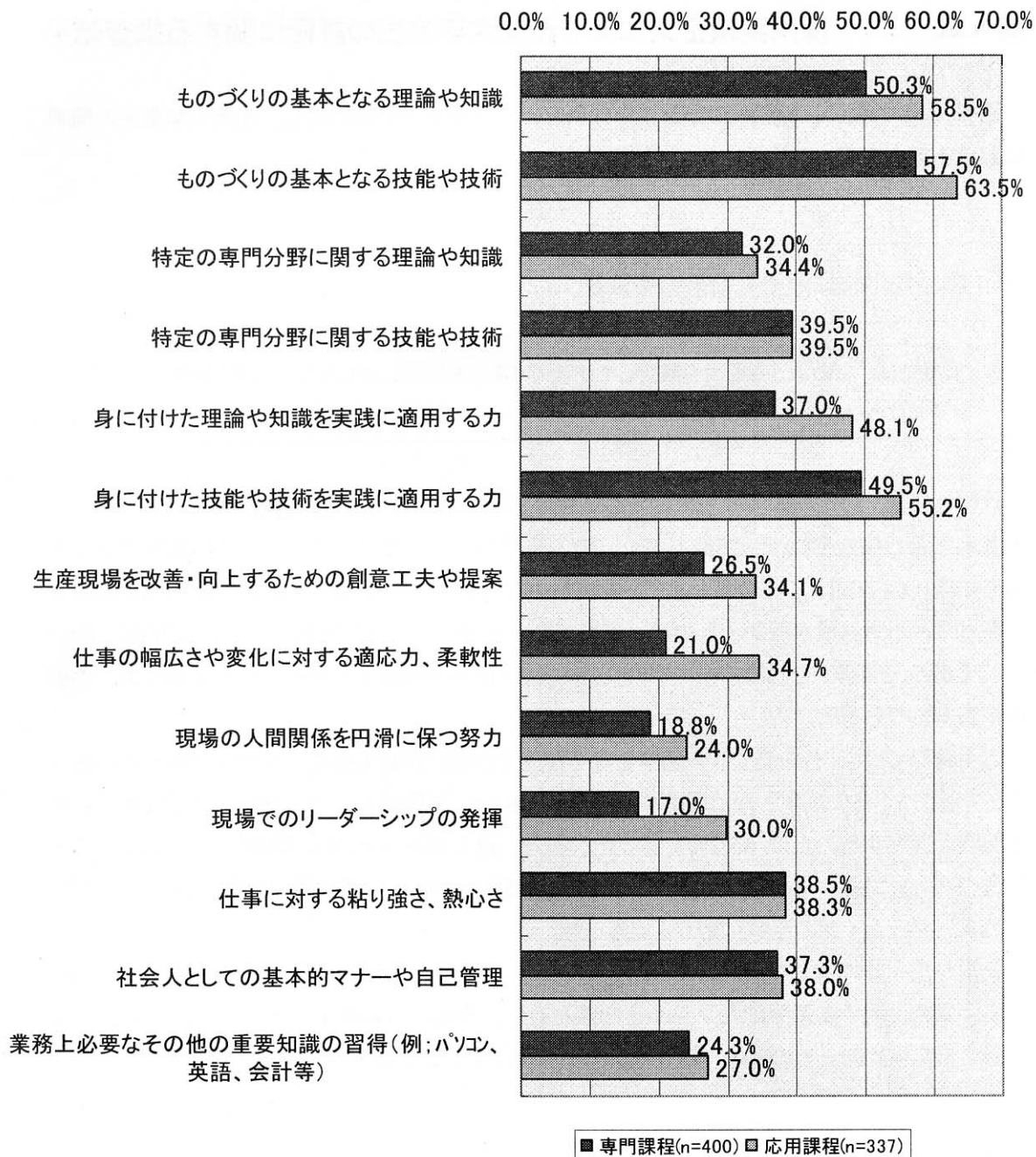


図4-1 採用時に期待した能力や資質 <全体>

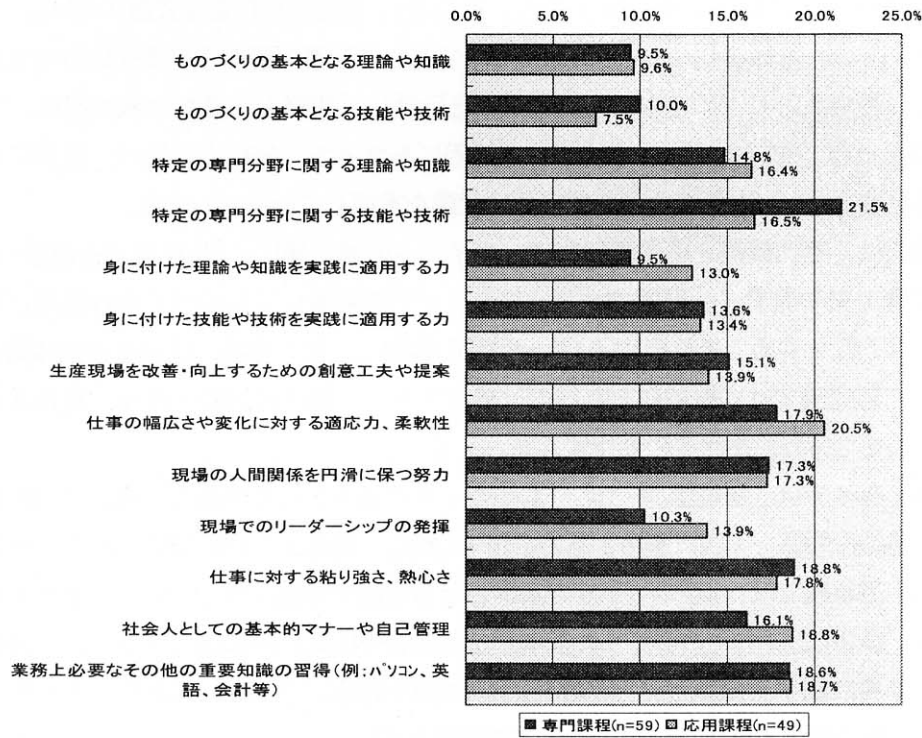
業種別に見ると、建設業では、専門課程ではポイントの高い順に、「特定の専門分野に関する技能や技術」、「仕事に対する粘り強さ、熱心さ」、「業務上必要な知識の習得」で、18～21%台であった。応用課程ではポイントの高い順に、「仕事の幅広さや変化に対する適応力、柔軟性」、「社会人としての基本的マナーや自己管理」、「業務上必要な知識の習得」で、18～20%台であった。建設業では、全体として採用にあたって、技術力に比べ、仕事に対する姿勢や、自己啓発といった社会人としての倫理意識を重視しているといえる。

製造業では、専門課程・応用課程共に、ポイントの高い順に、「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」、「現場でのリーダーシップの発揮」、「ものづくりの基本となる技能や技術」が上位を占め、それぞれ 54%～65%の範囲と、他の業種に比べると全体的に高い数値を示す。製造業では、採用にあたって、業務スキル、戦略的行動スキル、対人スキルと、総合的な力を期待し、またその期待度も高いと言える。

情報関連業種では、専門課程では、「ものづくりの基本となる理論や知識」が 19.4%、「身に付けた理論や知識を実践に適用する力」が 18.2%、「業務上その他知識の習得」が 17.5%であった。応用課程では、「ものづくりの基本となる理論や知識」が 24.9%、「業務上その他知識の習得」が 24.2%、「ものづくりの基本となる技能や技術」が 22.0%であった。情報関連業種では、業務に関する知識と、自己啓発面を比較的重視していると言える。また他の業種と比較すると専門課程より応用課程に対する期待度が高い。

その他業種では、専門課程では、高い順に「特定の専門分野に関する理論や知識」が 29.7%、「特定の専門分野に関する技能や技術」が 22.8%、「業務上その他知識の習得」が 21.6%であった。応用課程では、「業務上その他知識の習得」が 19.8%、「仕事に対する粘り強さ」が 18.6%、「現場の人間関係を円滑に保つ努力」が 18.6%であった（図 4-2）。

<建設業>



<製造業>

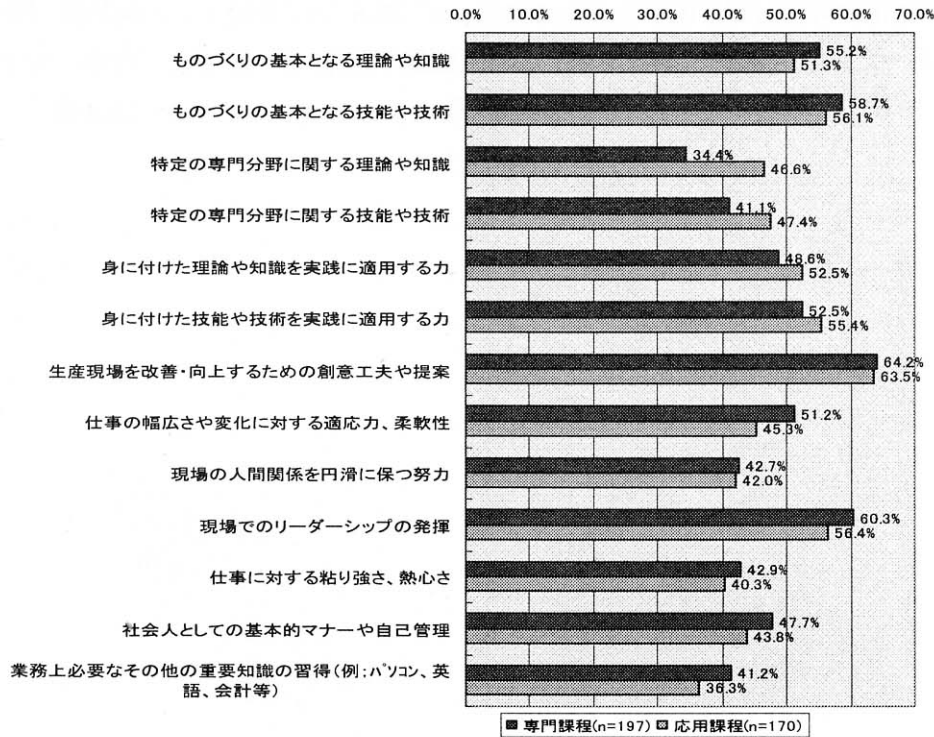
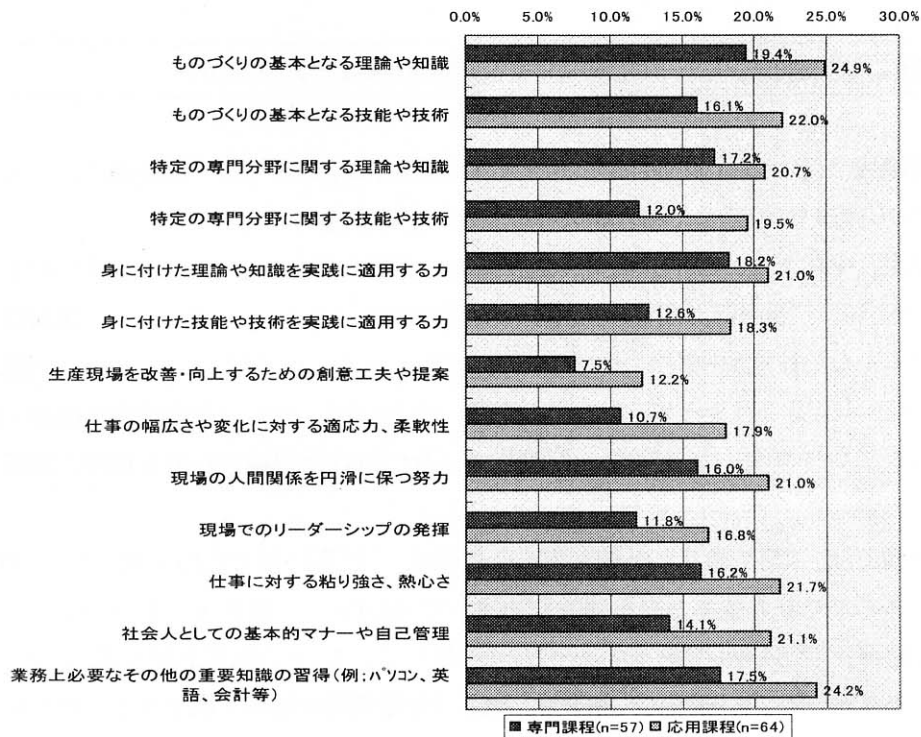


図4-2 採用時に期待した能力や資質 <業種別>

<通信・ソフトウェア・情報処理>



<その他業種>

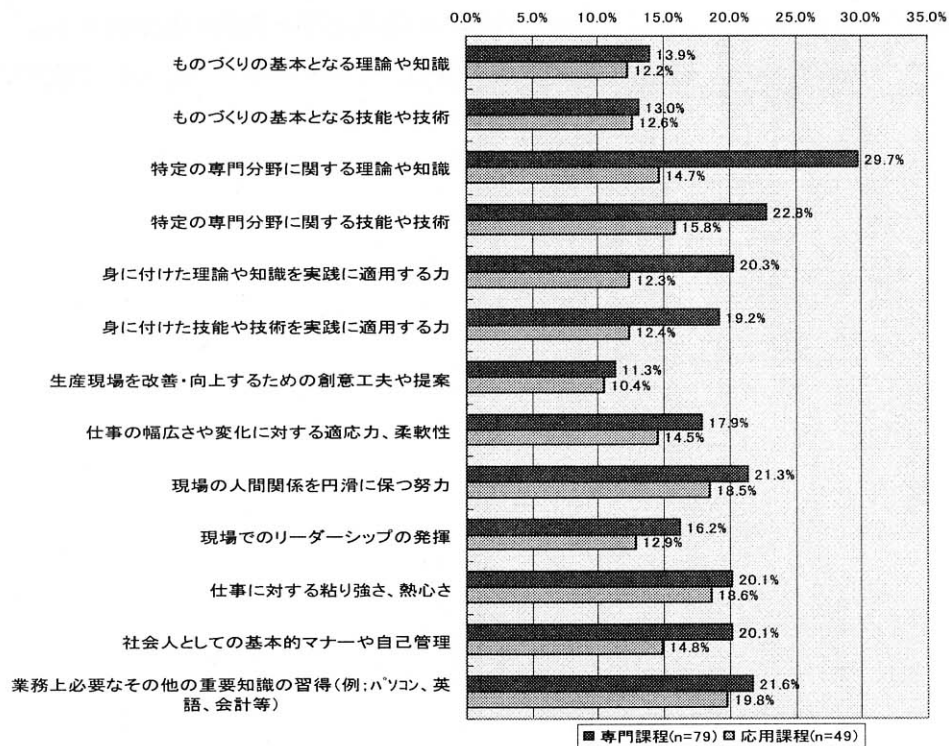


図4-2 採用時に期待した能力や資質 <業種別>

第2節 採用時の期待に対する採用後の実際の印象

Q7. 採用してみた結果、それらの期待に対する実際の印象はどうでしたか。

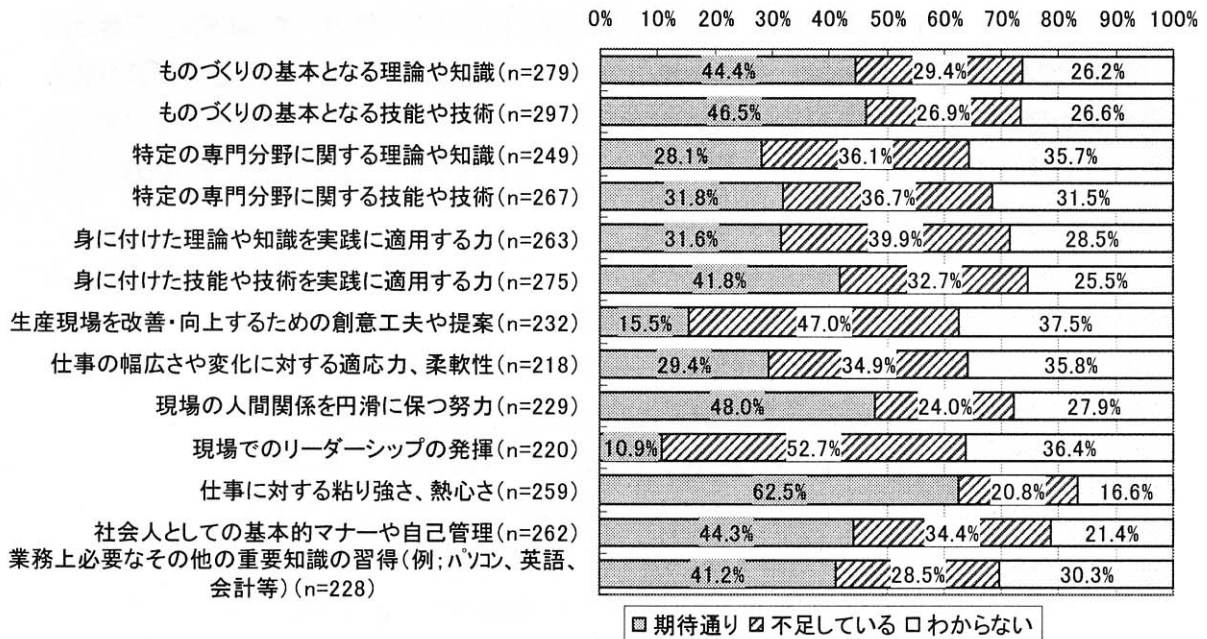
採用後職場に就いてからの能開大卒業生の実際の印象について、「期待通り」、「不足している」、「わからない」の三つの選択肢から最も近いものを選んでもらった。

その結果、全体では、専門課程で「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 62.5%、二番目は「現場の人間関係を円滑に保つ努力」で 48.0%、三番目は「ものづくりの基本となる技能や技術」で 46.5%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 52.7%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 47.0%、三番目は「身に付けた理論や知識を実践に適用する力」で 39.9%であった。

応用課程では、「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 69.5%、二番目は「ものづくりの基本となる理論や知識」で 55.4%、三番目は「ものづくりの基本となる技能や技術」で 54.6%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 36.8%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 33.5%、三番目は「身に付けた理論や知識を実践に適用する力」で 28.3%であった(図4-3)。

専門課程・応用課程共、企業にとって、仕事への取組姿勢と業務の基本的スキルについては期待通りであるものの、実践力や戦略的な思考力、リーダーシップについては不足感が高い。

<専門課程>



<応用課程>

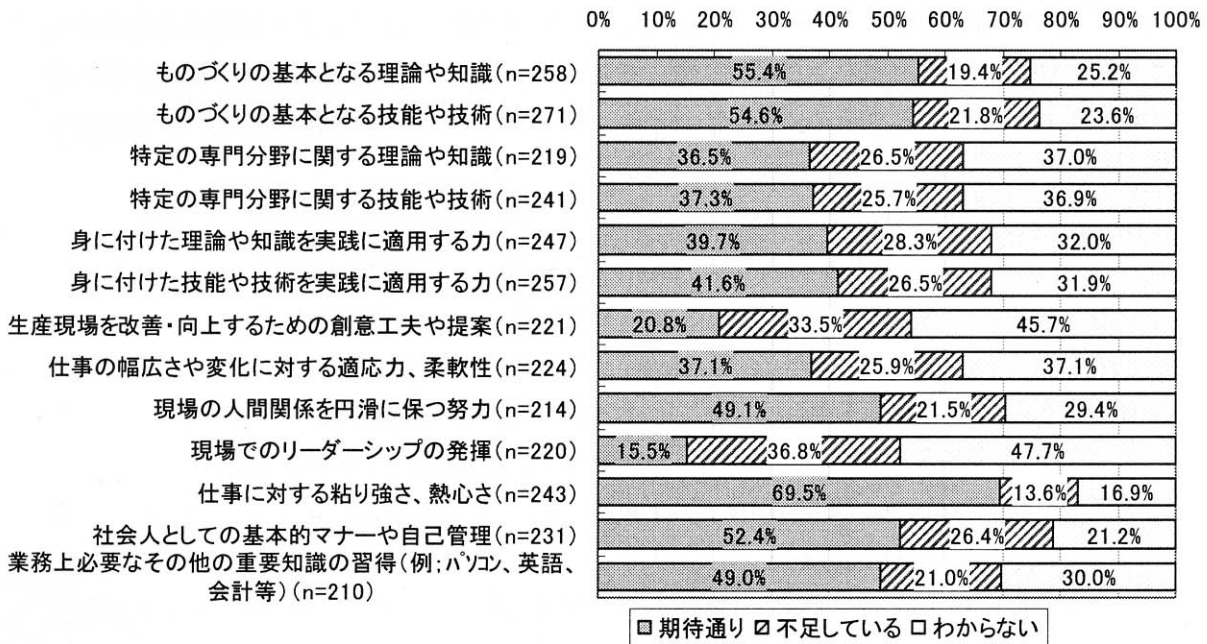


図4-3 採用後の実際の印象 <全体>

業種別に見ると、建設業では、専門課程で「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 77.1%、二番目は「現場の人間関係を円滑に保つ努力」で 54.8%、三番目は「業務上必要な重要知識の習得」で 46.9%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「身に付けた理論や知識の実践適用力」で 48.4%、次に「現場でのリーダーシップの発揮」で 46.2%、三番目は「社会人としての基本的マナーや自己管理」で 40.0%であった。

応用課程では、「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 74.4%、二番目は「社会人としての基本的マナーや自己管理」で 68.4%、三番目は「業務上必要な重要知識の習得」「現場の人間関係を円滑に保つ努力」で 55.6%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「身に付けた理論や知識の実践適用力」で 42.1%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 37.5%、三番目は「ものづくりの基本となる技能や技術」「特定の専門分野に関する理論や知識」で 33.3%であった。

「社会人としてのマナーや自己管理」に関して、応用課程では「期待通り」が「不足している」の 2.5 倍以上であるのに対し、専門課程では「期待通り」と「不足」がほぼ半数ずつを示した（図 4-4）。

製造業では、専門課程で「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 59.2%、二番目は「ものづくりの基本となる技能や技術」で 46.9%、三番目は「身に付けた技能や技術の実践適用力」で 42.7%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 53.3%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 50.8%、三番目は「身に付けた理論や知識の実践適用力」で 39.3%であった。

応用課程では、「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 69.6%、二番目は「ものづくりの基本となる理論や知識」で 56.6%、三番目は「ものづくりの基本となる技能や技術」で 56.4%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 39.3%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 35.5%、三番目は「身に付けた技能や技術の実践適用力」で 32.1%であった。

「期待通り」「不足」両項目において、専門課程・応用課程共にほぼ同じ結果を示したが、応用課程卒業生に対する「期待通り」との回答の方がどの項目においても 5～10%程度、専門課程卒業生よりも高い（図 4-5）。

情報関連業種では、専門課程で「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 75.0%、二番目は「ものづくりの基本となる理論や知識」「現場の人間関係を円滑に保つ努力」で 69.0%、続いては「ものづくりの基本となる技能や技術」で 63.4%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 58.3%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 45.5%、三番目は「仕事の幅広さや変化に対する適応力、柔軟性」で 38.1%であった。

応用課程では、「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 66.7%、二

番目は「ものづくりの基本となる理論や知識」「ものづくりの基本となる技能や技術」がともに66.1%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で31.7%、次に「社会人としての基本的マナーや自己管理」で30.2%、三番目は「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で28.9%であった。

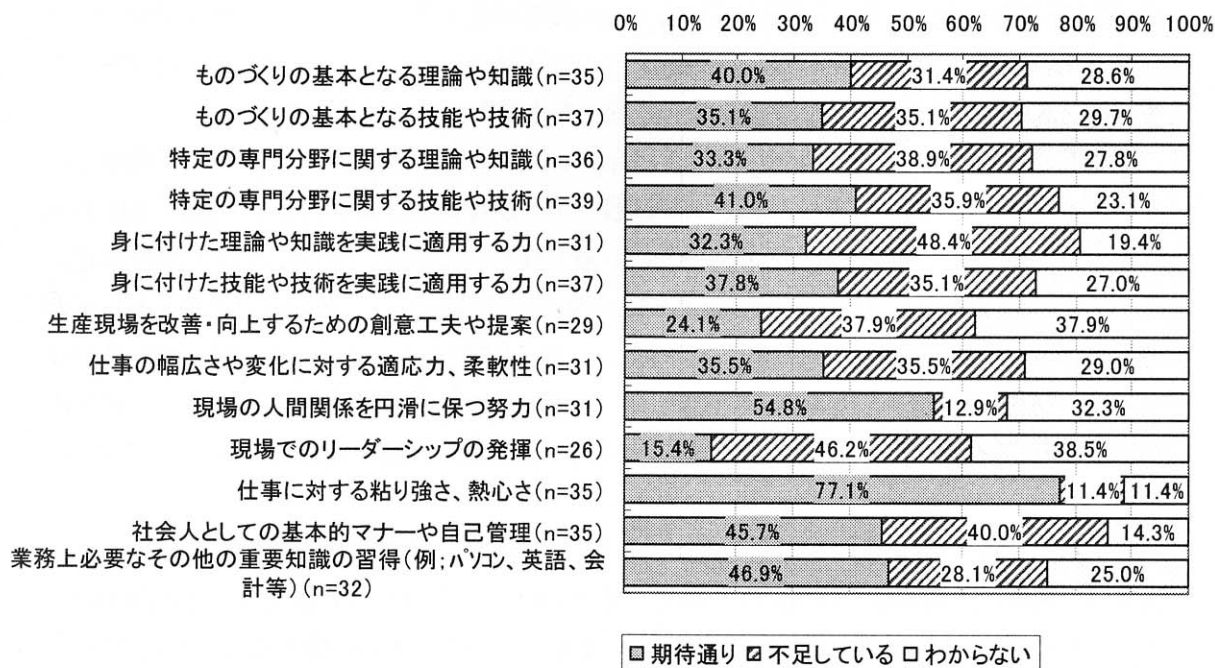
情報関連業種では、「期待通り」の回答割合が全体的に他業種に比べて高いが、「現場でのリーダーシップの発揮」に関しては、専門課程・応用課程共に全体平均よりも低い（図4-6）。

その他業種では、専門課程で「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で55.4%、二番目は「業務上必要な重要知識の習得」で52.2%、三番目は「社会人としての基本的マナーや自己管理」で50.9%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で46.5%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で38.6%、三番目は「身に付けた理論や知識の実践適用力」で37.7%であった。

応用課程では、「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で67.5%、二番目は「現場の人間関係を円滑に保つ努力」で61.8%、三番目は「社会人としての基本的マナーや自己管理」で56.8%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で29.0%、次に「仕事の幅広さや変化に対する適応力」「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で共に25.0%であった。

その他業種では、わからないとの回答も多く、特に応用課程では過半数の項目で「わからない」が50%を超えており、応用課程に対する認知度が低いと見られる（図4-7）。

<専門課程>



<応用課程>

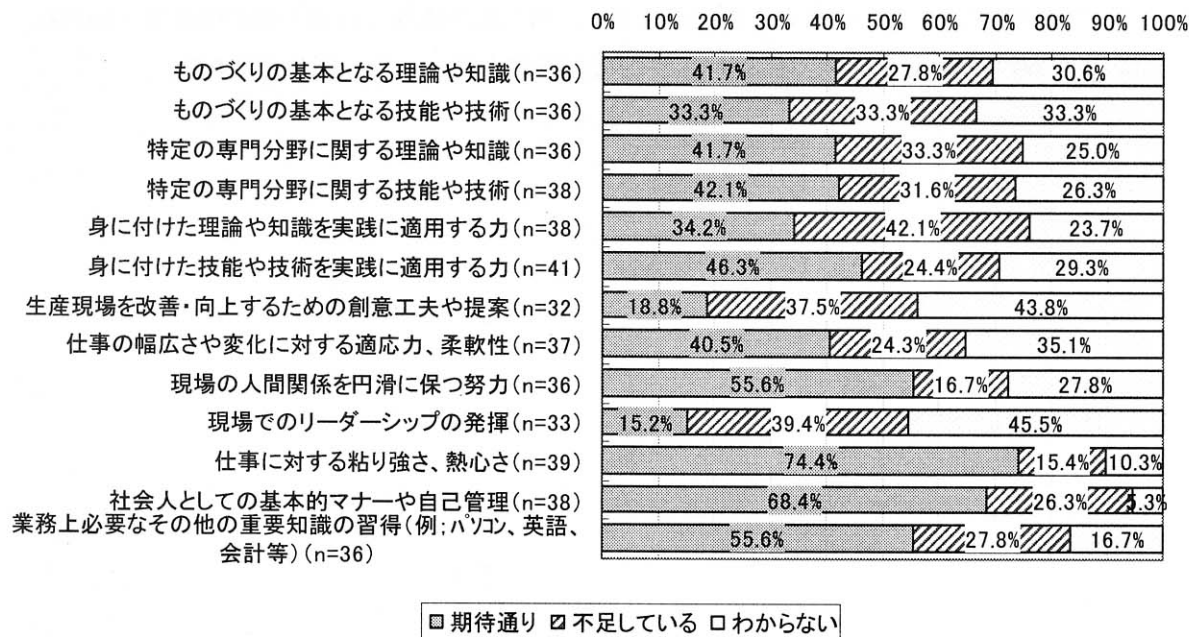
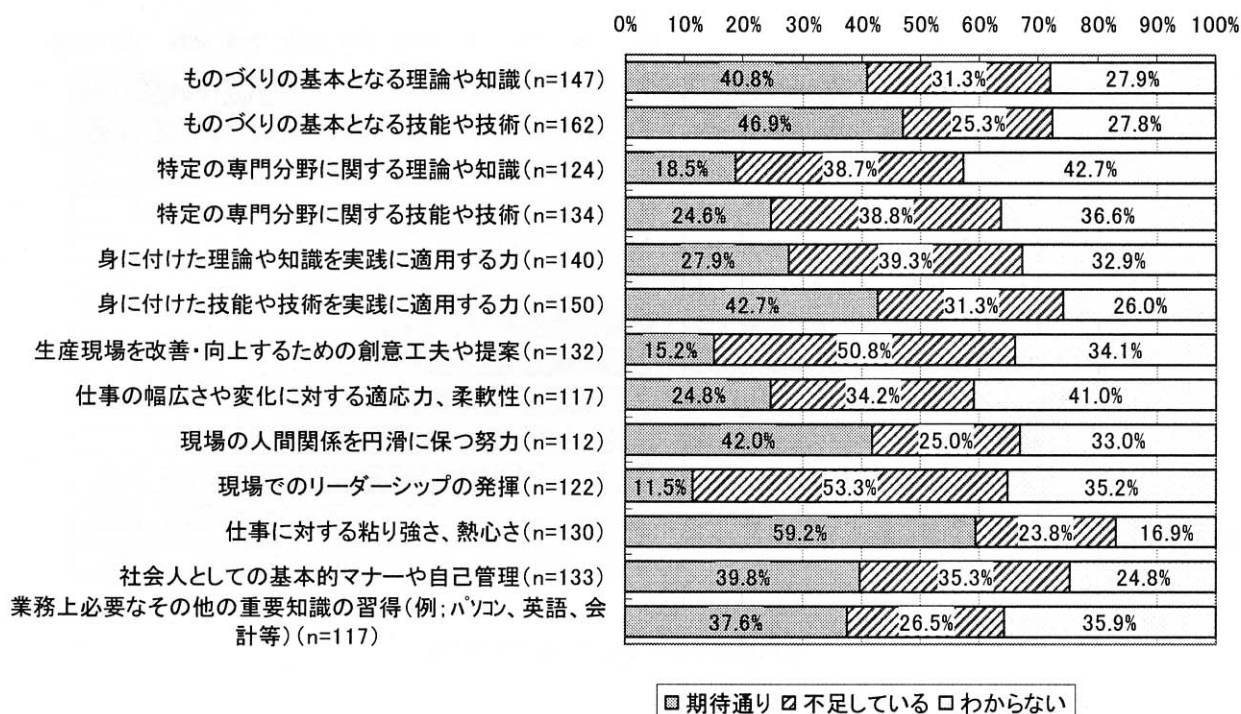


図4-4 採用後の実際の印象 <建設業>

<専門課程>



<応用課程>

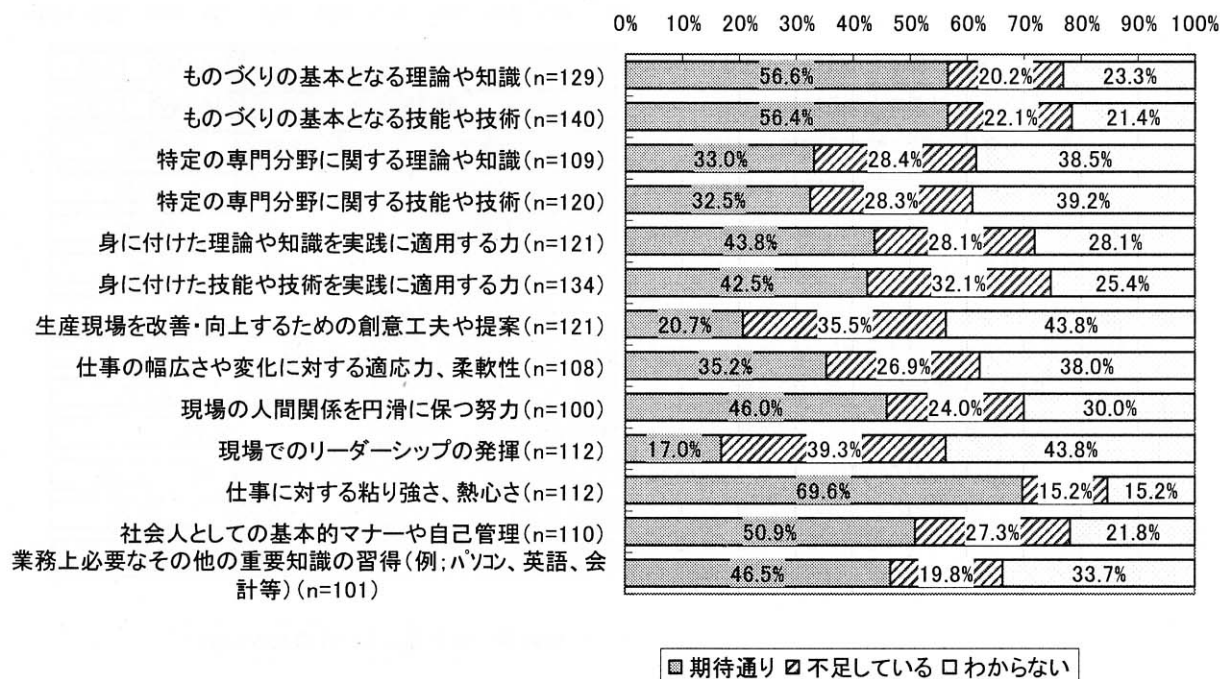
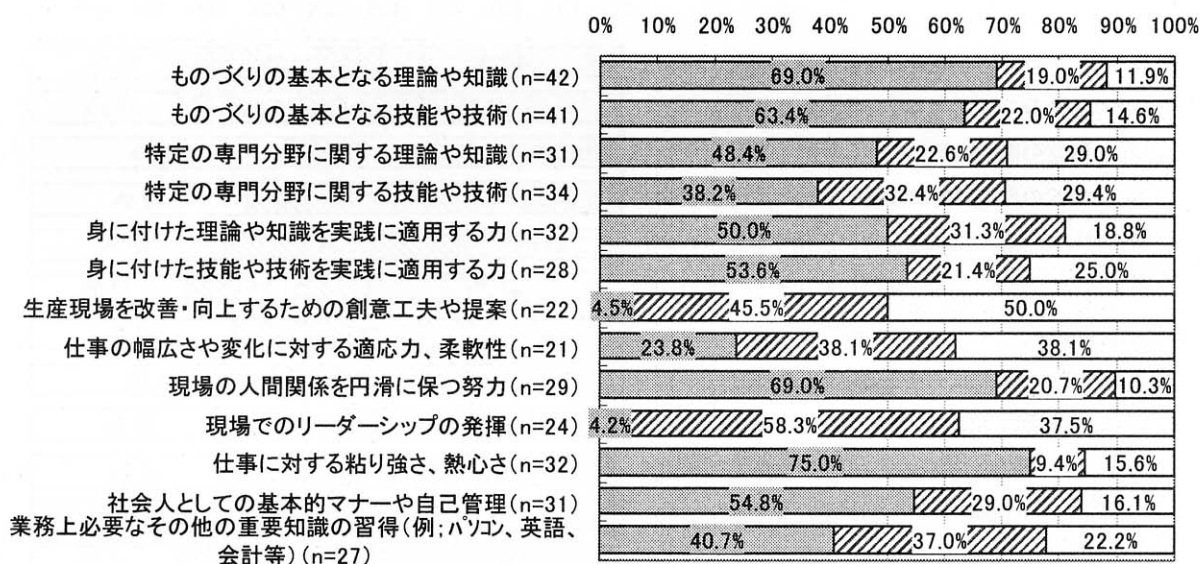


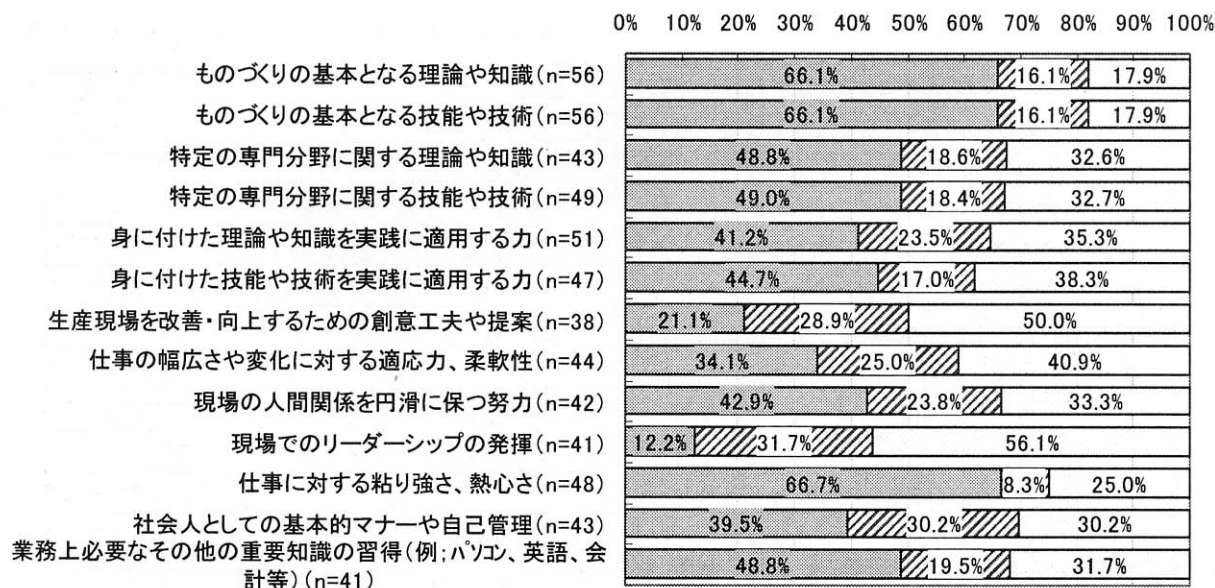
図4-5 採用後の実際の印象 <製造業>

<専門課程>



□ 期待通り ■ 不足している □ わからない

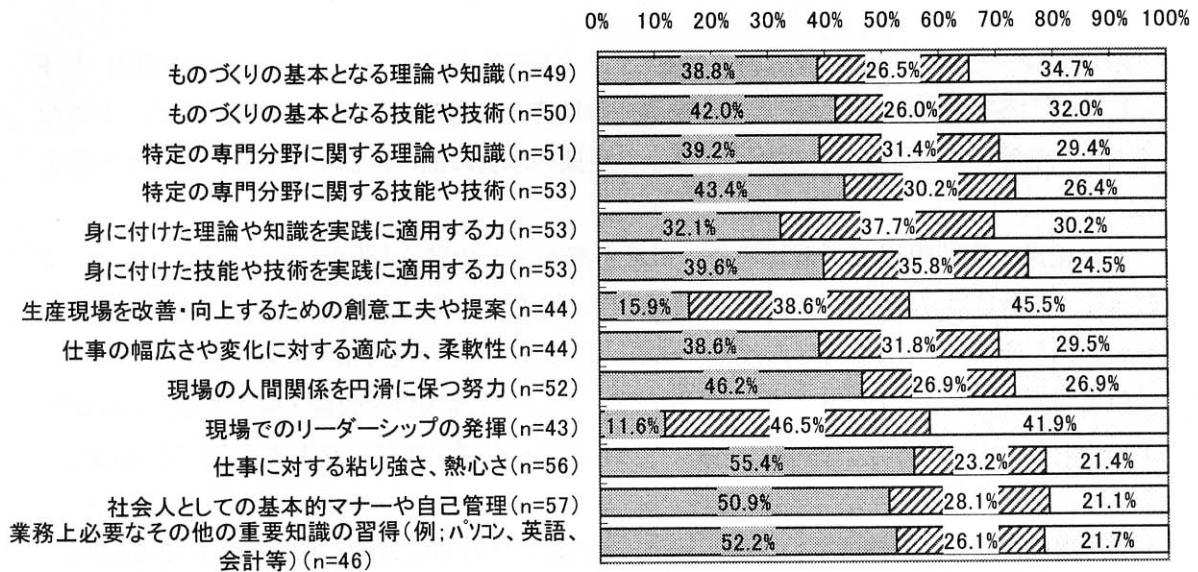
<応用課程>



□ 期待通り ■ 不足している □ わからない

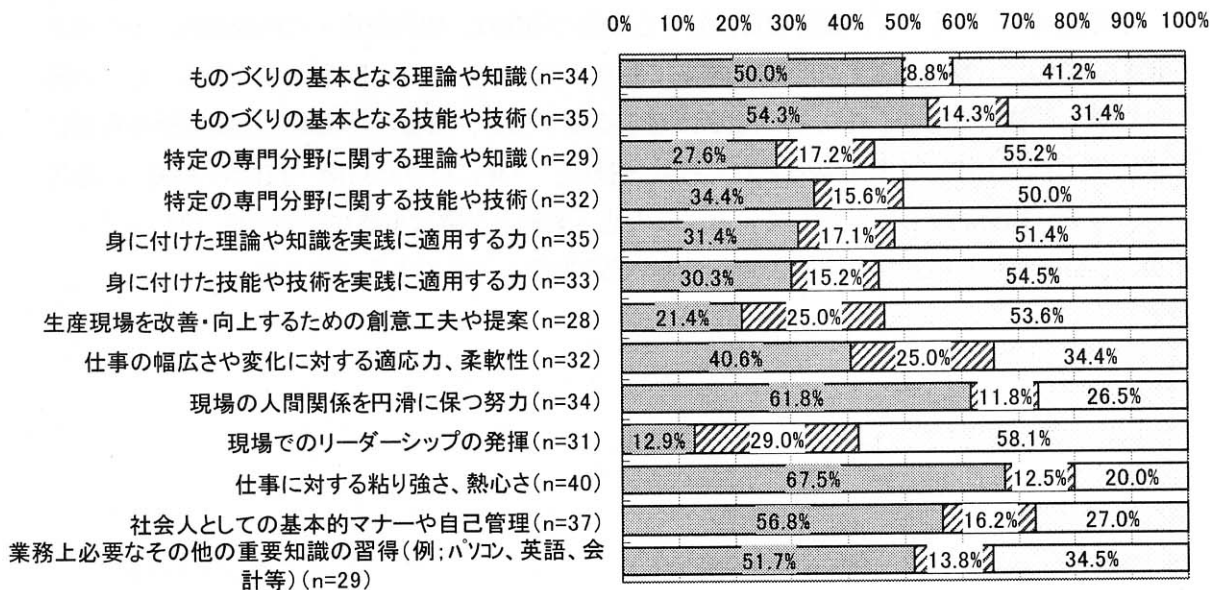
図4-6 採用後の実際の印象 <通信・ソフトウェア・情報処理>

<専門課程>



□ 期待通り □ 不足している □ わからない

<応用課程>



□ 期待通り □ 不足している □ わからない

図4-7 採用後の実際の印象 <その他業種>

第3節 採用時の期待に対する採用後の実際の印象

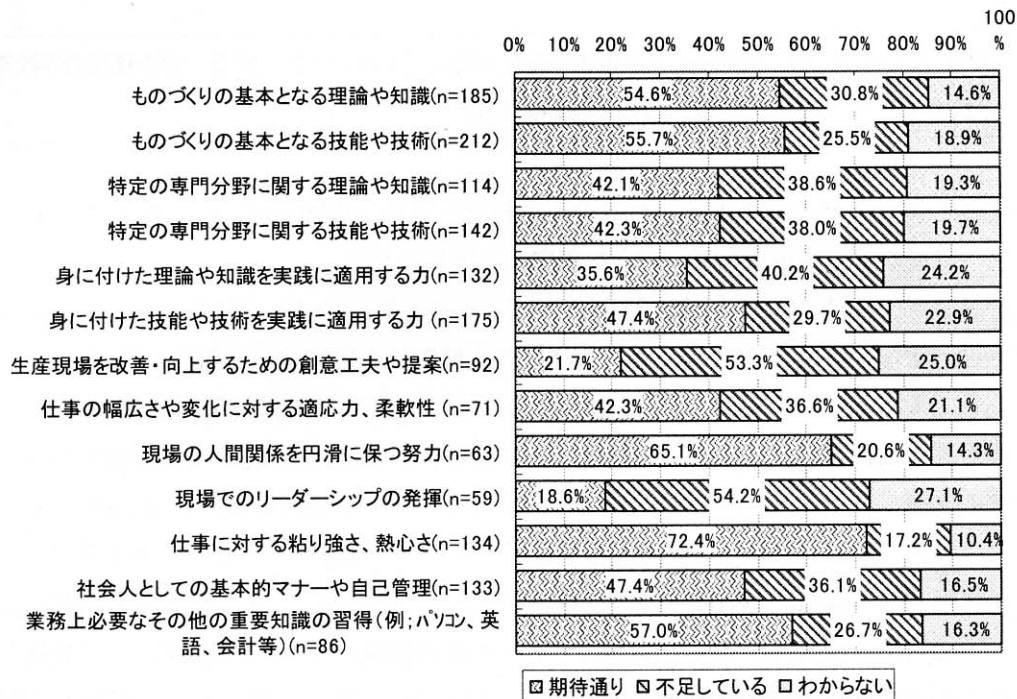
第1節においてそれぞれの企業が「期待した」と回答した項目（ここでは「期待項目」と呼ぶ）に対する実際の印象を集計した。採用時の期待と採用後の印象を対で比較することになるため、前節の結果で尋ねた実際の印象より企業の本音に近い評価結果が析出されと言える。

その結果、専門課程で「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 72.4%、二番目は「現場の人間関係を円滑に保つ努力」で 65.1%、三番目は「業務上必要な重要知識の習得」で 57.0%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 54.2%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 53.3%、三番目は「身に付けた理論や知識を実践に適用する力」で 40.2%であった。

応用課程では、「期待通り」が最も高かったのは、「仕事に対する粘り強さ」で 77.7%、二番目は「業務上必要な重要知識の習得」で 66.7%、三番目は「ものづくりの基本となる理論や知識」で 63.6%であった。一方、「不足している」との回答が最も多かったのは、「現場でのリーダーシップの発揮」で 37.4%、次に「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」で 32.7%、三番目は「特定の専門分野に関する理論や知識」で 29.1%であった。

前節図 4-3 に比べて、期待項目に対する実際の印象は、専門課程・応用課程共にどの項目においても、「期待通り」の回答が増えており、明確な意識が読み取れる。全体としての傾向は概ね同様であるが、中でも「仕事に対する粘り強さ、熱心さ」「現場の人間関係を円滑に保つ努力」「ものづくりの基本となる技能・技術」「身に付けた技能・技術の実践への適用力」等を「期待通り」と認識している。この他「業務上必要な重要知識の習得（例；パソコン、英語、会計等）」に対する採用後の好印象を読み取ることができる（図 4-8）。

<専門課程>



<応用課程>

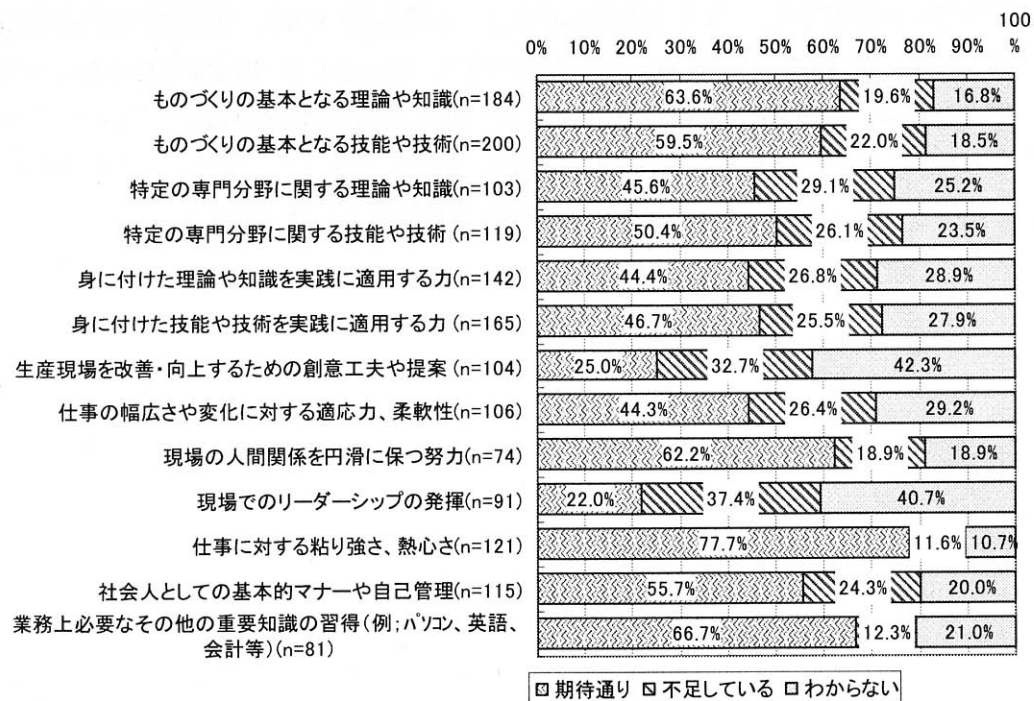


図4-8 採用時の期待に対する採用後の実際の印象

第4節 卒業生の能力評価

Q8. 過去3年の間に貴社の採用した能開大卒業生の能力を全般的に見た結果、他の種類の学校卒業生と比較するとどの程度の評価になると思いますか。

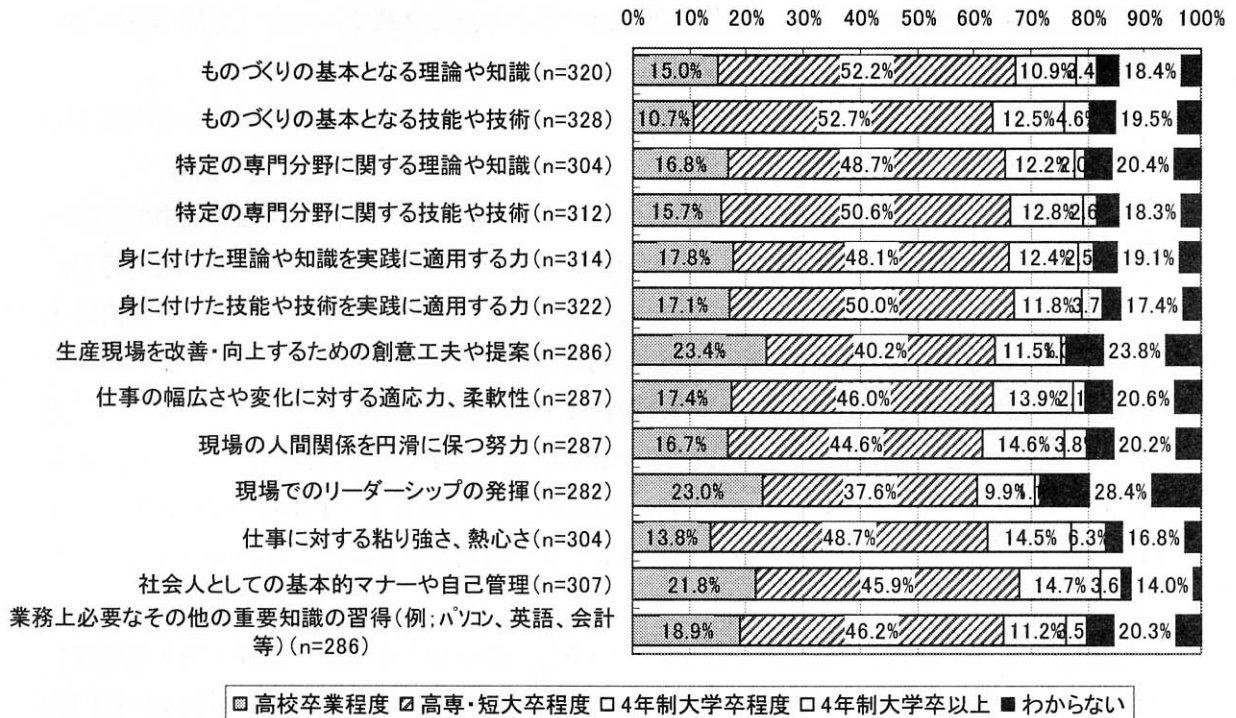
卒業生の能力をどの学歴相当であるのか尋ねたところ、専門課程では、概ねどの項目についても、約半数の企業が「高専・短大卒程度」と回答した。

他の学歴との評価では、「4年制大学卒程度」が最も高いのは、「社会人としての基本的マナーや自己管理」が14.7%、続いて「現場での人間関係を円滑に保つ努力」が14.6%、「仕事に対する粘り強さ、熱心さ」が14.5%であった。一方「高校卒業程度」が最も高いのは「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」が23.4%、続いて「現場でのリーダーシップの発揮」が23.0%、「社会人としての基本的マナーや自己管理」が21.8%であった。また、「わからない」では、「現場でのリーダーシップの発揮」が28.4%と最も高かった。

応用課程では、概ねどの項目についても、半数近くの企業が、「4年制大学卒程度」と回答した。中でも、「社会人としての基本的マナーや自己管理」の49.4%、続いて「業務上必要なその他の重要知識の習得」45.6%、「仕事に対する粘り強さ、熱心さ」「現場の人間関係を円滑に保つ努力」45.5%などが高く、社会人としての常識的部分について特に評価されていると言える。

他の学歴との評価では、「4年制大学卒業以上」が最も高いのは、「特定の専門分野に関する技術や技能」が16.5%、「仕事に対する粘り強さ、熱心さ」が16.4%であった。一方「高専・短大卒程度」が最も高いのは「ものづくりの基本となる理論や知識」「ものづくりの基本となる技能や技術」であり、それぞれ23.0%、22.2%であった。また、「わからない」では、「現場でのリーダーシップの発揮」が33.5%と最も高かった（図4-9）。

<専門課程>



<応用課程>

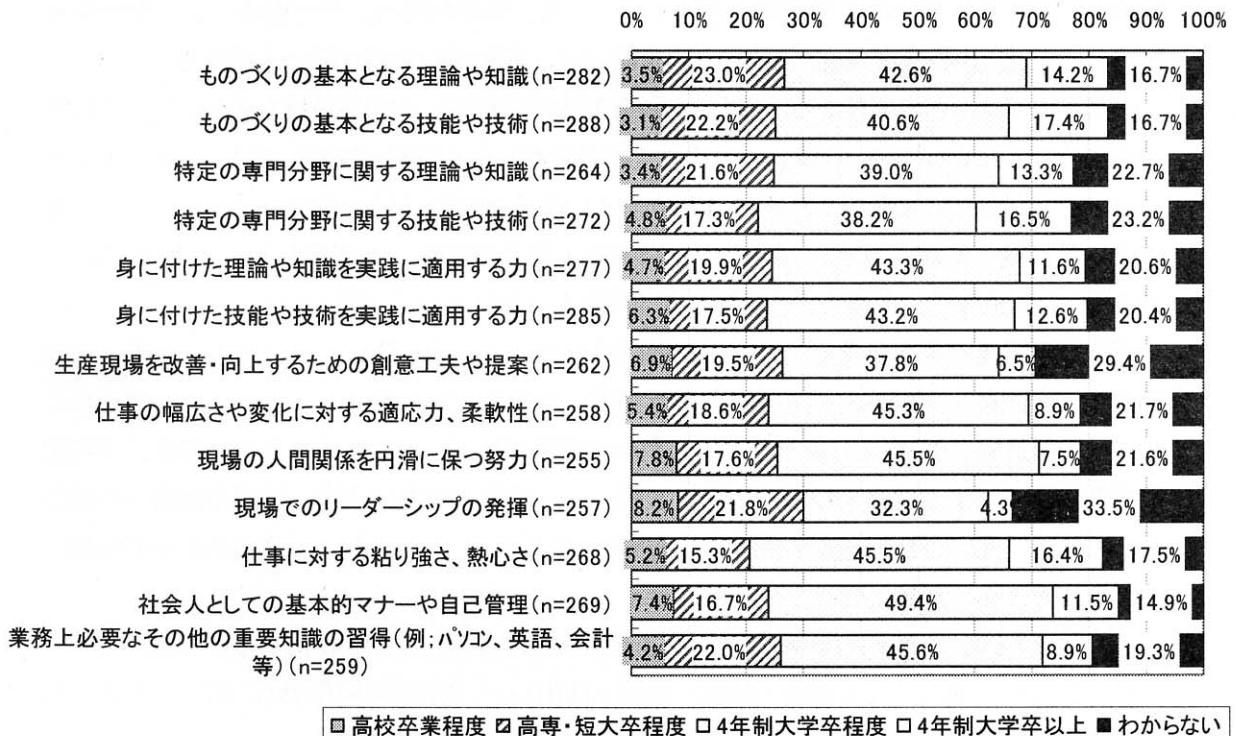


図4-9 他の学校卒業生との比較 <全体>

業種別に見ると、建設業の専門課程では、どの項目についても、「高専・短大卒程度」と回答した企業が最も多い。しかし他の業種に比べてその割合は低く、一方「高校卒業程度」と回答した企業割合が高くなっている。

他の学歴との評価において、「高校卒業程度」が特に高いのは、「社会人としての基本的マナーや自己管理」で、31.1%であった。

応用課程では、「特定の専門分野に関する理論や知識」「身に付けた技能や技術の実践への適応力」「仕事の幅広さや変化に対する適応力」「現場の人間関係を円滑に保つ努力」「仕事に対する粘り強さ、熱心さ」「社会人としての基本的マナーや自己管理」「業務儒必要な重要知識の習得」の7項目に関しては、「4年制大学卒程度」の回答が最も多かったが、それ以外の項目に関しては、「高専・短大卒程度」の回答が最も多いか、4年制大卒と同じ割合であった。特に、業務知識・スキルに関する項目では基礎力実践力関わらず、評価が相対的に低くなっている。応用課程において他の業種はすべての項目で「4年制大学卒程度」が高いのに対し、「高専・短大卒程度」の回答が最も多い項目があるのは、建設業のみであった(図4-10)。

製造業の専門課程では、概ねどの項目についても、約半数の企業が「高専・短大卒程度」と回答した。特に、「ものづくりの基本となる理論・知識、技能・技術」、「特定の専門分野に関する技能・技術」、「技能・技術の実践への適応力」は過半数を超え、業務スキルや知識において特に相対的評価が高いといえる。一方、戦略的思考力や行動力、リーダーシップについては「高校卒業程度」の割合が比較的高く、相対的に評価が弱いと言える。

応用課程では、どの項目についても、「4年制大学卒程度」の回答が最も多かった。「特定の専門分野に関する技能・技術」「ものづくりの基本となる技能・技術」では、「4年生大学卒以上」と回答した企業がそれぞれ17.3%、14.1%と比較的多い一方で、「ものづくりの基本となる理論・知識、技能・技術」では「高専・短大卒程度」と回答した企業も25.5%、26.1%と比較的多く、業務スキルに関しては評価が分かれている(図4-11)。

情報処理関連の専門課程では、すべての項目において、過半数以上の企業が「高専・短大卒程度」と回答している。一方「高校卒業程度」と回答した企業は、リーダーシップを除くすべての項目で10%以下にとどまり、これは他業種に比べて低い割合である。特に、「特定の専門分野に関する理論・知識、技能・技術」、「理論・知識、技能・技術の実践への適応力」については、「4年生大学卒程度」と回答した企業が20%を超え、業務スキルや知識に関する評価は高いと言える。

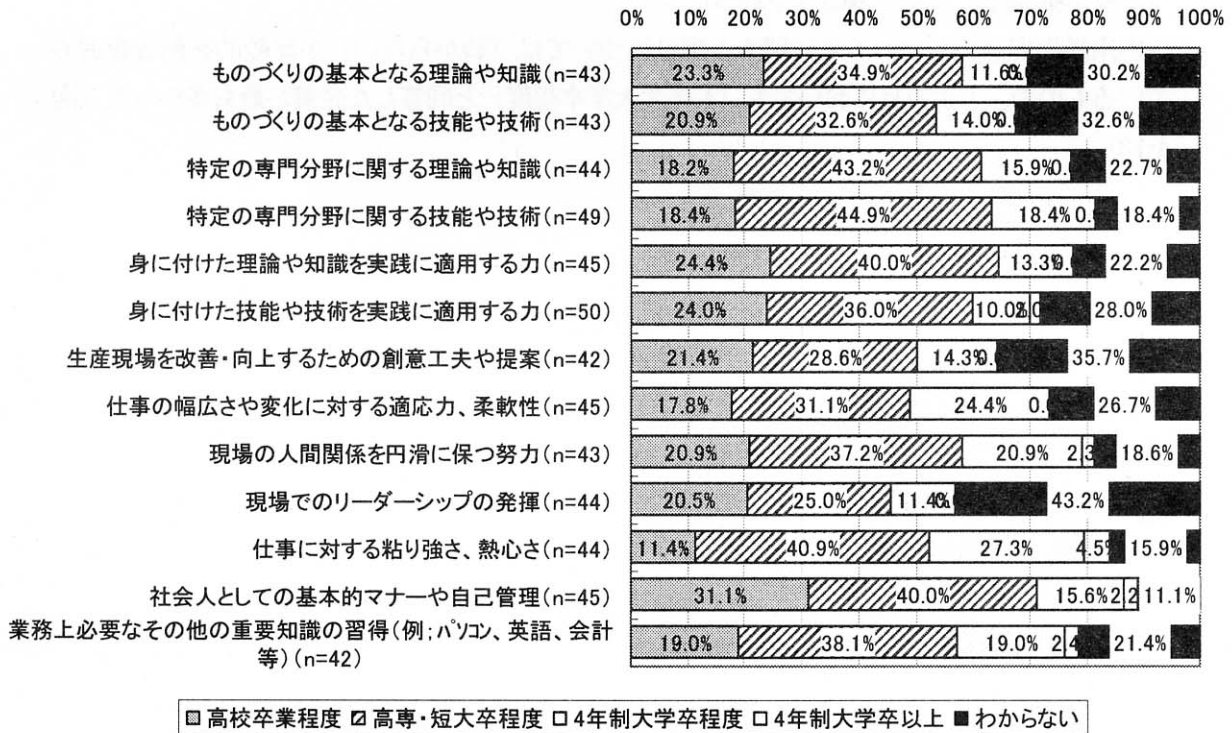
応用課程では、どの項目についても、「4年制大学卒程度」の回答が最も多かった。特に、「ものづくりの基本となる理論・知識、技能・技術」、「特定の専門分野に関する理論・知識、技能・技術」については、「4年生大学卒以上」と回答した企業が20%を超え、業務スキルや知識に関する評価は高いと言える(図4-12)。

その他業種の専門課程では、概ねどの項目についても、約半数の企業が「高専・短大卒程度」と回答した。しかし、「生産現場を改善・向上するための創意工夫や提案」「現場での

リーダーシップ」の2項目については、「高専・短大卒程度」が35.6%にとどまる一方で「高校卒業程度」が共に26.3%であった。

応用課程では、ものづくりに関する項目については「わからない」が比較的高割合を占めているものの、どの項目においても「4年生大学卒程度」と回答した企業が最も多かった(図4-13)。

<専門課程>



<応用課程>

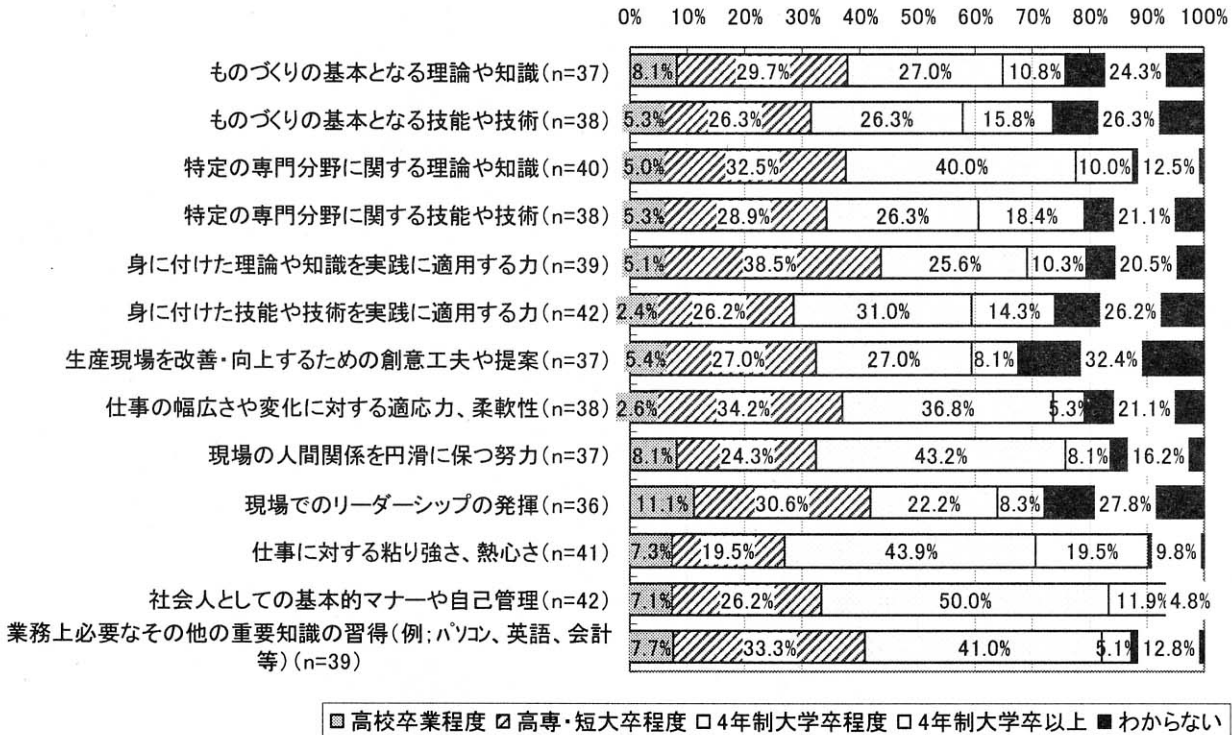
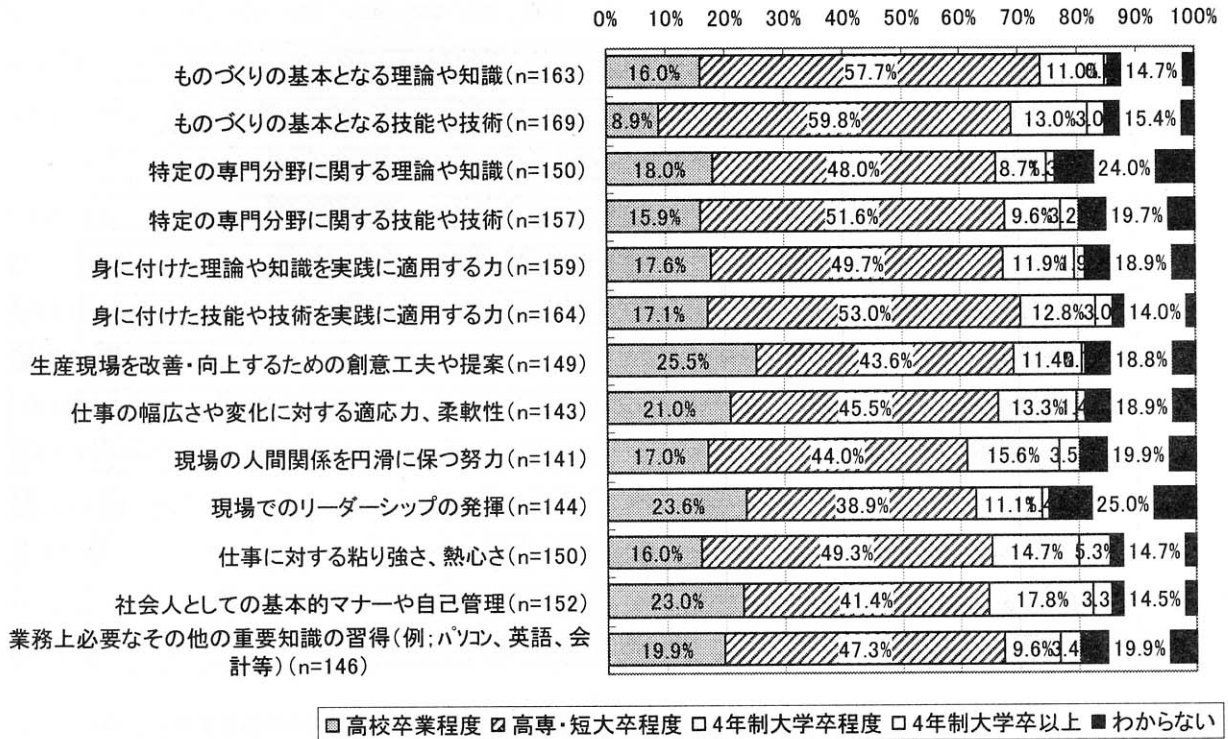


図4-10

他の学校卒業生との比較 <建設業>

<専門課程>



<応用課程>

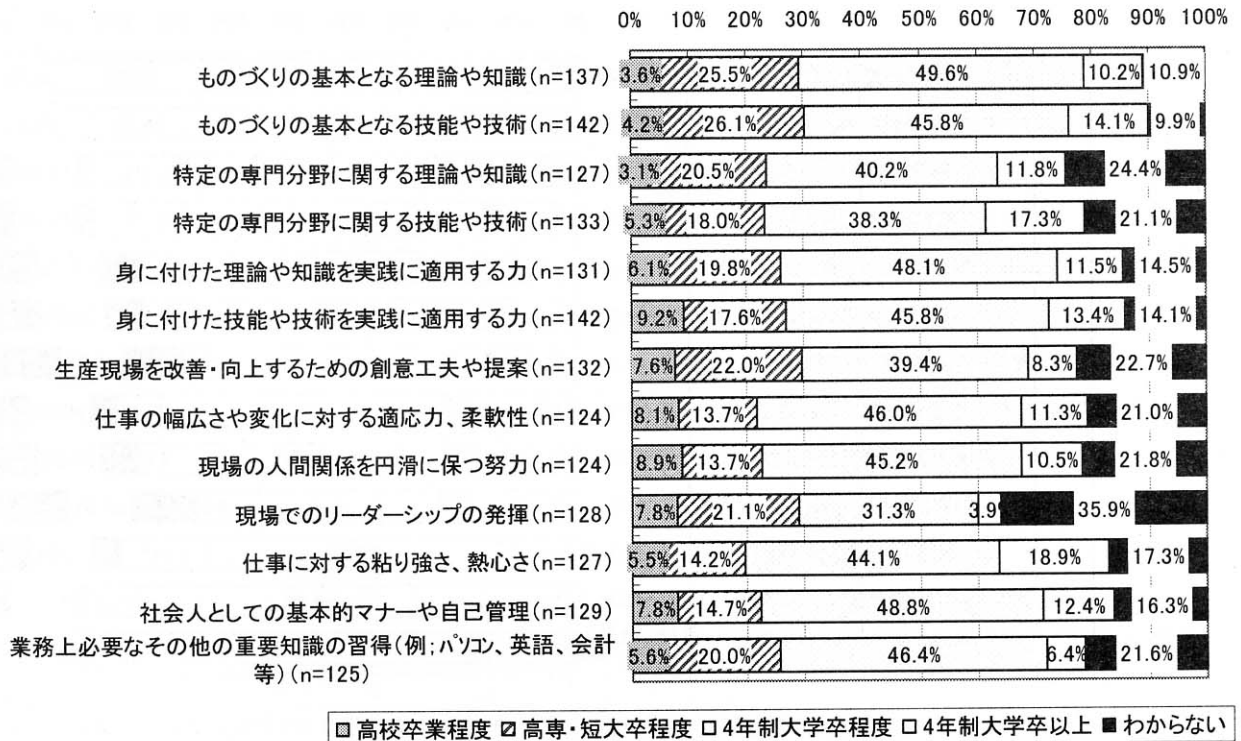
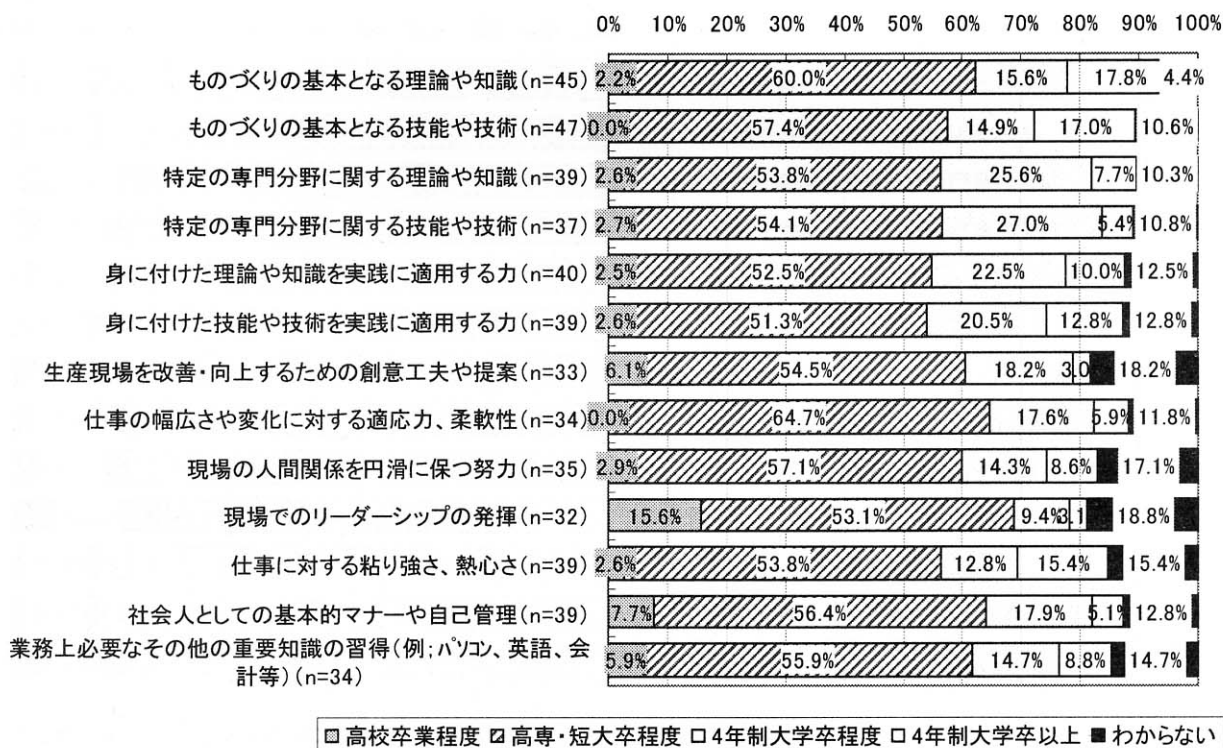


図4-11 他の学校卒業生との比較 <製造業>

<専門課程>



<応用課程>

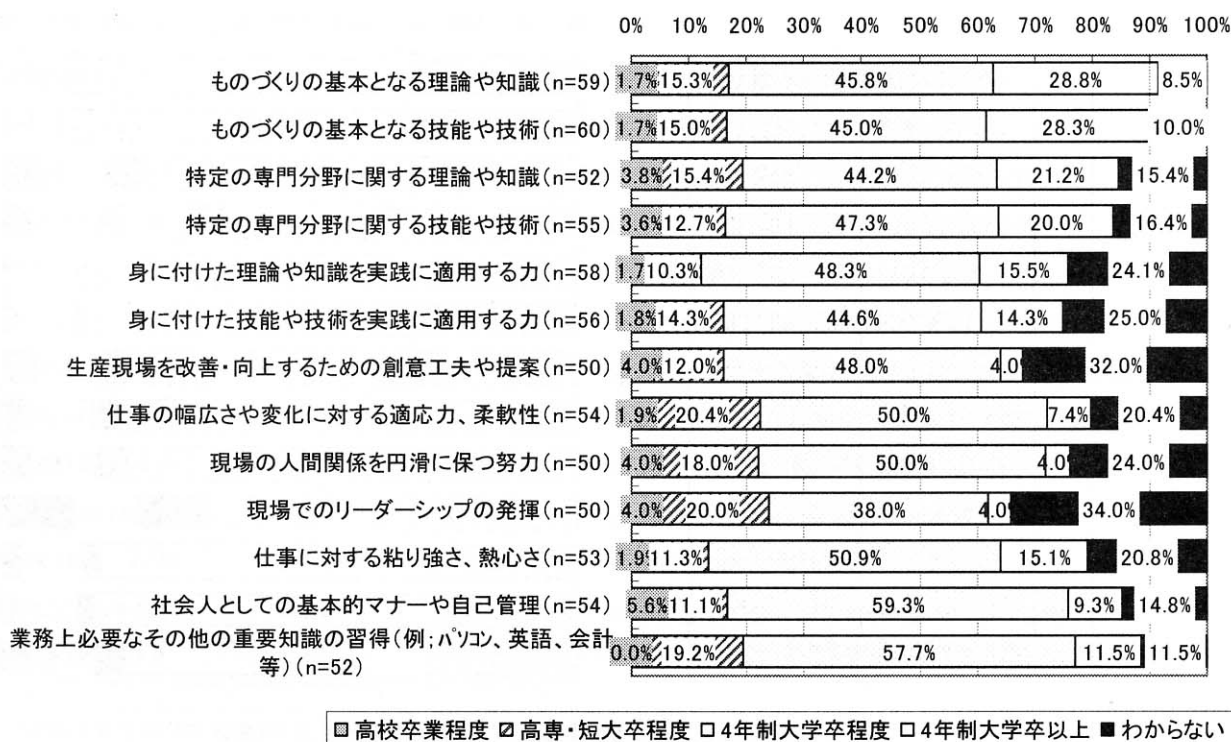
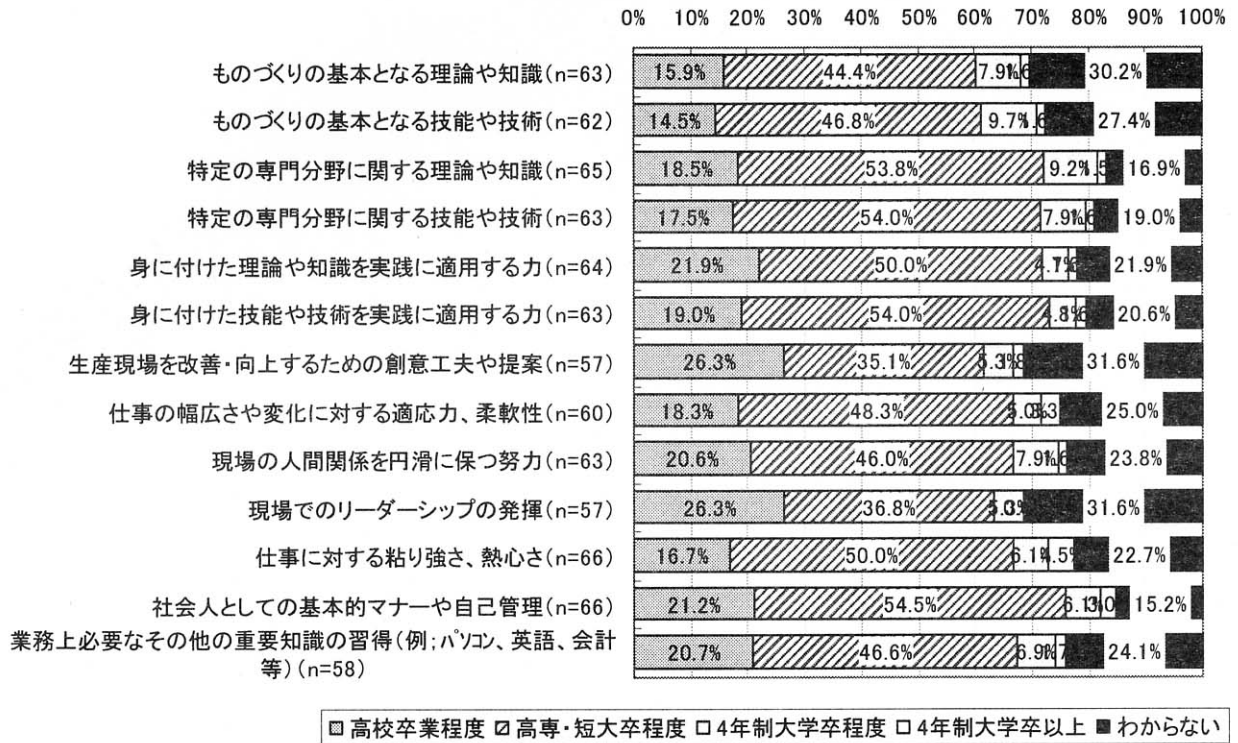


図4-12

他の学校卒業生との比較 <通信・ソフトウェア・情報処理>

<専門課程>



<応用課程>

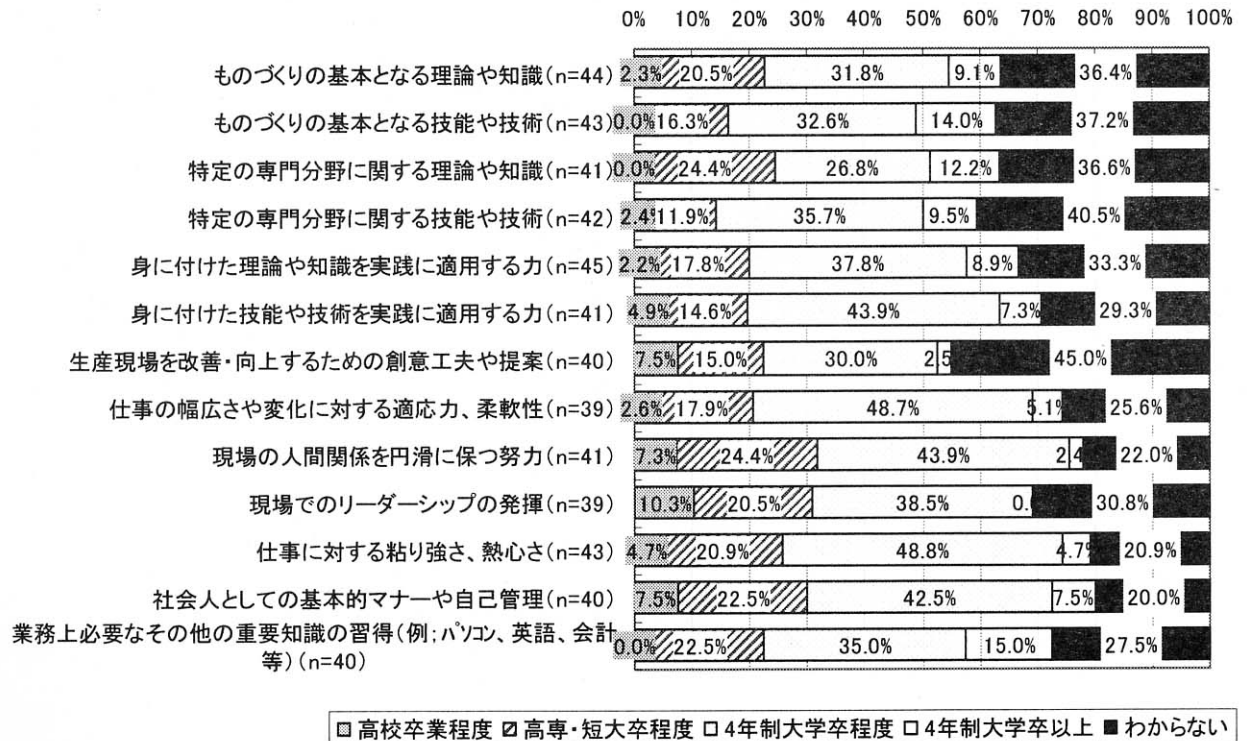


図4-13 他の学校卒業生との比較 <その他業種>